



まつもと じゅん

松本純 まちかど政治瓦版

中区・磯子区・金沢区



令和5年6月1日号
発行

自民党

神奈川1区支部
発行責任者
平木 茂

6月号
2023年
No.243

松本純ホームページ▶<https://jun.or.jp/>

ご意見箱▶opinionbox@jun.or.jp

金沢区「旧長濱検疫所一号停留所」の移設保存が決定!

建物は国が横浜市に寄贈 市は公園施設として維持管理、利活用へ合意

金沢区長浜にある旧長濱検疫所一号停留所(現資料館)は、明治期の横浜の栄華を今日に伝える大変貴重な歴史的建造物です。設立は1895(明治28)年。開港により海外貿易が急速に発展する中、当時、懸念されたのは外国船舶からの病原菌の侵入でした。

明治12年には検疫感染者数16万2637人、死者数は10万5786人に上り、貿易を発展させるには検疫業務の強化は待ったなしの状態に追い込まれていました。

政府は水際対策として、横浜港入口に位置するこの地に、より強化した検疫所に加え、外国からの感染者を一時的に隔離するホテル機能(停留所)をもつこの施設を誕生させました。

当時の検疫医官補の一人に、後に細菌学者として世界的に知られる野口英世がいて、業務中ペスト菌を発見するなど、この施設は感染拡大を抑え込む事で、我が国の貿易の発展に大きく寄与したのです。

「検疫資料館」として一般開放され、市民に親しまれてきたこの施設ですが、2022(令和4)年度、横浜港検疫所が、みなとみらい地区へ移転することに伴い、所管する厚生労働省は、この施設の役割は終えたものとして、解体の方向性を打ち出しました。

しかし、横浜市にとっては開港の歴史を語りかける貴重な現存施設であり、また地元金沢区民にとっては身近に金沢の歴史を感じられる大切な施設です。2020(令和2)年10月1日、NPO法人野口英世よこはま顕彰会・田中常義理事長、NPO法人横浜金沢文化協会・国吉一夫理事長(当時)など、資料館保存活動に携わって来た皆さんは、当時、衆議院議員の松本純を訪ね、この施設の保存への支援協力を要請しました。この時、松本は、「横浜市、地元金沢区の文化遺産として後世に残す意義を強く感じた」と語っています。

とはいえ、国の施設です。国が打ち出した解体の決定を覆し、地元のために保存するなど、容易な事ではありません。市民の保存活動にとっても、国政に携わっていた松本純にとっても、茨の道の始まりでした。

保存は、さる2023(令和5)年3月31日、国(厚生労働省所轄)と横浜市との間で合意がなされ、覚書が交わされました。松本純は所轄の厚生労働省と財源確保のため財務省に度重なる交渉を重ねてきました。難航と紆余曲折を経た交渉の結果、国が施設を解体し、横浜市所轄の「海の公園」に移設した後、建物は横浜市に寄贈され、横浜市は公園施設として、この建物を維持管理し、利活用して行く合意がなされました。

この旧長濱検疫所一号停留所が金沢区民、横浜市民、また多くの皆さまに愛され、後代に検疫の意義、歴史、文化が継承されていくことを、心よりお祈り申し上げます。



保存が決まった旧長濱検疫所一号停留所(現資料館)



松本純は、NPO法人野口英世よこはま顕彰会、NPO法人横浜金沢文化協会、横浜市政策局、横浜市金沢区議員団代表と共に、厚生労働省・大島一博事務次官へお礼の訪問をしました。

【2023年 5月】

松
本
純
の
活
動
記
録

- 3日●吉田まちじゅうピアガーデン
- 9日●吉田町町内会・名店街役員会・市況研究会
- 10日●自由民主党横浜市支部連合会・会長選考委員会
- 13日●根岸八幡神社令和5年度崇敬会大祭式典
- 14日●神奈川県ふく協会令和4年度総会・懇親会
- 15日●第35回多摩薬業連携協議会フォーラム(講師)
- 16日●神奈川県猟友会令和4年度第15回通常総会(表彰)・懇親会

- 17日●日本保険薬局協会定時総会懇親会
- 18日●志公会と語る夕べ
- 20日●県連地域連合支部・選挙区支部令和5年「支部長会議」
●自民党横浜市中区連合支部役員会
- 21日●鎌倉鶴岡東地区本部創立55周年・日本極拳友会創立45周年・2023創立記念交流演武大会開会式
●大岡川水上劇場2023開会式
●石川町裏フェス



5/5 横浜成田山春の例大祭大本山 成田山貫首御巡錫特別大護摩供奉修 ●筒井照琢主監より「コロナ禍で本年も縮小しての例大祭となりましたが、無事執り行う事が出来ました」との謝辞がなされました。



5/11 神奈川1区広報活動●統一地方選挙の為休止していた、神奈川1区広報活動を開始。能見台駅前での活動で、毎朝、駅周りの掃除とお店に来るお客様へ朝の挨拶を欠かさない理容店の店長に頭が下がります。



5/13 根岸八幡神社令和5年度崇敬会大祭式典●宮崎常嘉宮司から「今年から改めて8月に八幡神社の例大祭を始めさせていただきますのでご参集いただきますようお願い申し上げます」との挨拶がなされました。



5/13 若葉が眼に染みる5月に音楽を聴く会●向山秀樹先生から「地域の皆様でここで新しい友達を作りたい。そんな思いで40年間続けてまいりました。」と挨拶がなされました。



5/14 麦田町元氣朝市●新鮮な野菜や洋菓子などの出店の中、朝市名物の大谷雷太さんのバイオリン演奏を楽しんでいた松本純は突然雷太さんからリクエスト(MY WAY)を頂戴し、一曲披露させていただきました。



5/15 瀬戸神社例大祭●神事は三管の雅楽が奏でられ、佐野和史宮司の祝詞奏上、神社本庁献幣使による祭礼後、瀬戸神社奉賛会・相川文五郎会長と峯尾舜副会長、各町氏子総代表の皆さんが玉串を奉奠しました。



5/18 日本保険薬局協会定時総会懇親会●首藤正一会長は「来年20年を迎え、384社18,200薬局72,000人の薬剤師を含む34万人が国民の健康のために尽くしている。何事も謙虚に取り組みたい」と挨拶されました。



5/18 志公会と語る夕べ●麻生太郎会長挨拶、岸田文雄総理挨拶(広島サミットのためビデオレター)、自民党幹部代表挨拶、各派閥代表挨拶がなされ、懇談会では各メンバーは「のぼり旗」の下でお客様に御礼ご挨拶がなされました。

永田町日記

超党派「人口減少戦略議連」野田聖子会長に聞く

松本 大変重要な超党派の議連を作られ、会長になられたとお伺いしました。

野田 「人口減少」という日本のエネルギーが失われていく現実を土台から検討する場を作った、そんな感じです。日本は50年かけて人を減らし、子どもが生まれなくなっている国です。例えばこの1年近くで鳥取県ほどの人口が自然消滅していると発表がありました。少子化による人口減少はもう確定しています。18年後の成人は80万人を切るの明らかです。今までの政策は人口が増えることを前提で作ってきたため、減っていく人への政策転換は誰もやったことないんです。自民党だけでなく共産党だって人は減る。私たち議員連盟は、党派を超えた全ての人の中立的な立場で、人口減少に対して戦略的に考えていく一つの舞台である、そういう共通認識を持っています。「少子化対策=子育て支援」ではないのです。1~2年の子育て費用を手当をするだけでは人口減少を止めることはできません。

松本 これから100年後、2120年頃には4700万人まで人口が減ると言われています。それを止めることが正しいのか、そういった社会を受け入れざるをえないのか、大変難しい判断をしなければなりません。

野田 今から反転攻勢で様々な取り組みをしても、人口減少は100年位でやっと止まるかなという勢いです。厳しくはあるけれど深刻にならず、人口が減る中で何を欲し、何を諦めていくのかを冷静に、党派を超えて議論ができればと思っています。

松本 これからの日本はどうなるのか、大変重要な課題です。ともに頑張りましょう。



YouTube
 matsujun411
 動画 配信中

